

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	(大洲総合運動公園)土木建築部 公園・生活排水課 (大分県立総合体育館)教育庁 体育保健課
評価対象期間	平成25年4月1日～平成26年3月31日

1 指定概要

施設概要	名称	大洲総合運動公園及び大分県立総合体育館	施設種別	レクリエーション・スポーツ
	所在地	大分市青葉町1番地		
	設置目的	(大洲総合運動公園) 工業地帯と市街地を遮断する緩衝緑地帯として、また県民の健康と体力の維持・増進を図り公共の福祉の増進に資するため、各種スポーツ施設を備えた運動公園として設置。 (大分県立総合体育館) 県民の体育及びスポーツの振興を図り、健康で文化的な生活の向上に寄与するため、総合体育施設を備えた体育館を設置。		
指定管理者	名称	ファビルス・プランニング大分共同事業体		
	代表者名	代表団体 株式会社ファビルス 代表取締役 野田 武太郎		
	所在地	大分市青葉町1番地		
指定管理業務の内容	(大洲総合運動公園) ① 公園施設の維持管理及び修繕に関する業務 ② 公園の利用の受付及び案内に関する業務 ③ 公園の利用の許可に関する業務 ④ 公園の利用促進に関する業務 ⑤ その他知事が特に必要と認めること (大分県立総合体育館) ① 体育施設の維持管理及び修繕に関する業務 ② 体育施設の利用の受付及び案内に関する業務 ③ 体育施設の利用の許可に関する業務 ④ 体育施設の利用の促進に関する業務 ⑤ 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要と認める業務			
料金制度	利用料金 ・ 使用料 ・ 該当なし			
指定期間	平成25年4月1日～30年3月31日(5年間)			

2 評価結果

評価項目及び評価のポイント	配点	評価レベル	得点
1 施設の設置目的の達成(有効性の向上)に関する取組み	40		32
(1)施設の設置目的の達成			
①計画に則って施設の管理運営(指定管理業務)が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか(目標を達成できたか)。	20	4	16
②施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。			
③複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。			
④施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。			
【評価の理由】 (大洲総合運動公園) ○ 大洲総合運動公園の平成25年度の利用者は187,702人で24年度164,247人に対し114.3%となっている。この要因としては自主事業で行っているテニススクールの時間枠拡大やプロ野球オープン戦(読売ジャイアンツVSソフトバンク)、日本女子ソフトボール1部リーグの開催、また、平成24年度は硬式野球場、弓道場が改修工事によりそれぞれ2ヶ月間使用できなかったが、平成25年度は通年使用できたこと等が考えられる。 ○ 自主事業としてノルディックウォーキング教室を新たに開設するとともに、春(子供の日)と秋(体育の日)の大洲公園祭りで施設の無料開放を行い、冬(成人の日)に「運動不足をテニスで解消」でテニス教室を開き、併せてコスプレイベントin大洲公園を同時開催して集客を図っている。 コスプレイベントはその話題がインターネットを通じて全国に発信されたことから県内のみならず、県外の参加者も増えている。			

(大分県立総合体育館)

- 県立総合体育館の利用者は295,153人で前年度285,253人に対し103.5%となっている。主な要因は、大相撲大分場所の開催や自主事業として夏休みと冬休みに子供を対象としたダンス、かけっこ、ボール投げ、なわとび等の各教室を開催するとともに、女性や年配者でも気軽に利用できるレスマイルズプログラム(体幹トレーニング)を中心とした様々なカルチャー教室の開催、またトレーニングルームでの適切で効果的な指導を行っている。
- また、各カルチャー教室のワンコイン(500円)体験会や授業内体験会を定期的に開催するとともに、イベント等のチラシを近隣地区へポスティングして利用者の拡大に取り組んでいる。さらにホームページにカルチャー教室申込みのバナーを設け、インターネットで希望の教室に申込みができるようにして利用者の利便性の向上を図っている。

(大洲総合運動公園・大分県立総合体育館)

- 公園と体育館を合わせた利用者数は482,855人で年々増え続けており、平成25年度からの目標利用者数の413,700人に対し達成率116.7%となっている。
- 管理運営業務を円滑に行うために共同事業体及び協力支援団体の関係幹部で構成する『共同事業体連絡調整会議』を毎月1回開催し、年間利用者数の目標及び年間使用料収入目標額を常に念頭に置き、運営上の問題点や新規事業への対応など全般にわたり協議を行い、情報の共有化を図り、管理運営に努めている。

(2) 利用者の満足度

①利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。

②利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。

③利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。

④利用者への情報提供が十分になされたか。

⑤その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

20

4

16

【評価の理由】

(大洲総合運動公園)

- 昨年度の評価部会の意見をを受けてアンケートの調査内容の見直しを行い、①施設の使いやすさ、②施設の清潔さ、③スタッフの対応、④次回利用希望の項目を掲げ、より具体的な意見を引き出すための工夫を行っている。そして、なるべく多くの利用者から意見を徴するため各施設の利用団体に直接アンケートをお願いする等回収数増加の取組を行っている。
- また、利用者の意見、苦情については、毎日のスタッフ会議で共有し、対応できるものは速やかに対応しており、アンケートの調査結果についてはホームページで公表している。
- さらにホームページをリニューアルして、24時間いつでもインターネットでテニスやノルディックウォーキング教室の申込ができ、また、テニスコート、硬式野球場、軟式野球場の空き状況の確認ができるバナーを開設して利用者の利便性を高めている。

(大分県立総合体育館)

- 「お客様の声BOX」を常設し、アンケート調査も実施して、お客様から寄せられた意見・苦情に対しては、連絡先のあるものはその日のうちに直接電話等で回答を行うとともに、対応の内容について速やかに掲示板でお知らせするようにしている。
- また、これらの意見等や対応方法については毎日のスタッフ会議で共有し周知が図られており、アンケート調査結果についてはホームページで公表している。
- さらにホームページをリニューアルして、24時間いつでも体育館で実施するカルチャー教室の申込みができるバナーを設け、会議室、研修室の空き状況の確認ができるようになっており、利用者の利便性を高めている。

2 効率性の向上等に関する取組み

30

24

(1) 経費の低減等

①施設の管理運営(指定管理業務)に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。

②清掃、警備、設備の保守点検等の業務について再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。

③経費の効果的・効率的な執行がなされたか。

20

4

16

【評価の理由】

(大洲総合運動公園・大分県立総合体育館)

- 平成22年11月から電気の需給契約を九州電力(株)から新日鐵住金エンジニアリング(株)に変更し、割引サービス等を有効に活用して電気料金の縮減を図っている。
- 平成23年度に硬式野球場の水洗トイレ50ヶ所に節水コマを取り付け、水道に係る経費の縮減を図っている。
- また、下水道料金を支払う必要のないグラウンドや花壇等の散水口5箇所にメータを取り付け、下水道に係る経費縮減を図っている。
- 主要施設(硬式野球場、体育館等)の手洗蛇口25ヶ所を自動化し、トイレ照明のスイッチレス(人感センサー)化を8箇所で行って、感染症対策と節水対策を併せて行うことで経費の縮減を図っている。
- 以前は機械関係と電気関係の管理はそれぞれ別の有資格者を配置していたが、緊急時や不在の際に互いに補完できるように電気・機械両方の有資格者を配置して効率を高めている。
- 電話とインターネットについては光回線化を進め、使用料のコスト削減を図っている。
- ビル総合管理会社のファビルスが体育館の清掃、全体の警備、設備の保守・管理業務を直営で行うことで経費縮減されており、公園の清掃についてはシルバー人材センターとの連携により地元住民の活用を図り、また、近隣の会社や学校等の各団体にボランティアで清掃を行ってもらっている。
- 以前はゴミとして処理していた剪定木や枯れ葉を、燃料や堆肥等として利用する呼びかけをホームページ等で行い個人や団体に差し上げている。

(2)収入の増加

①収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

10 4 8

【評価の理由】

(大洲総合運動公園・大分県立総合体育館)

- 合計使用料収入(公園+体育館)は57,952千円で年間目標額51,000千円に対し達成率113.6%となっており、メリットシステム(110%を超える額の1/2を翌年度に加算)が適用される。

(大洲総合運動公園)

- 使用料収入は、16,449千円で24年度13,926千円に対し118.1%となっている。これは自主事業で行っているテニススクールの時間枠拡大やプロ野球オープン戦の開催と平成24年度に硬式野球場と弓道場が改修工事のため2ヶ月使用できなかったが、平成25年度は通年使用できたことが主な要因と考えられる。

(大分県立総合体育館)

- 使用料収入は41,503千円で、前年度40,877千円に対し101.5%となっている。主な要因は各種自主事業(カルチャー教室)の展開とトレーニングルームでの適切な指導による利用者の増加等によるものと考えられる。また、チラシを作成し継続して近隣エリアに配布を行っている効果が現れているものと思われる。

3 公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組み

30 24

(1)施設の管理運営(指定管理業務)の実施状況

- ①施設の管理運営(指定管理業務)にあたる人員の配置が合理的であったか。
- ②職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか。
- ③地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。

15 4 12

【評価の理由】

(大洲総合運動公園・大分県立総合体育館)

- ビル総合管理会社(ファビルス)が、解散した大分県公園協会の職員を再雇用し、これまでのスキルを活かした運営が行われており、そして総合広告代理店(プランニング大分)及び協力支援企業(コナミ)が加わり、毎月の共同事業体連絡調整会議を開催しながら情報を共有して連携・協力がなされている。
- 職員の資質・能力向上を図るため、国や県等外部主催の各種研修会や講習会に積極的に参加している。
- また、指定管理業務を適正に遂行するため人権同和問題・施設の安全管理等をテーマに共同事業体の幹部による研修会を毎月開催し、それに基づきスタッフへの周知を図っている。
- 地元自治会・住民団体・各企業・スポーツ連盟・学校等と連携して公園内の清掃、花壇づくり等に協力・参加してもらっている。
- 高齢者就労支援及び地元住民参加の一環としてグラウンド整備や清掃業務等を行うスタッフについてはシルバー人材センターと連携をとり、地元住民を優先的に派遣してもらっている。
- 総合型地域スポーツクラブや各種スポーツ団体・サークル等と連携・協力し、様々なスポーツの無料体験会やカルチャー教室等を開催するとともに、それらを支援するため、掲示板やホームページ等で活動状況を掲示している。
- 県内の障がい者のスポーツ団体・アスリート等を支援するため平成25年度に「障がい者スポーツ振興支援自販機」を1台設置して売上の一部を「大分県障がい者体育協会」を通じて支援に充てている。
- 中学校と連携をとり、「青少年育成・社会教育事業」として職場体験学習等の受入を行っている。
- 大洲公園祭りやカルチャー教室等について地元公民館や自治会等にポスターの掲示や回覧をお願いしてなるべく多くの住民の方に参加していただいている。

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など			
①関係法令(地方自治法、労働関係法令、通則条例、設置条例等)が遵守されているか。			
②施設の利用者の個人情報保護するための対策が適切に実施されているか。			
③利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。			
④施設の管理運営(指定管理業務)に係る収支の内容に不適切な点はないか。	15	4	12
⑤管理物件の修繕や日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。			
⑥防犯、防災対策等の危機管理体制が適切であったか。			
⑦事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。			
【評価の理由】 (大洲総合運動公園・大分県立総合体育館) ○ 個人情報の保護・情報公開・文書取扱等については法や条例に基づき諸規定を整備している。 また、スタッフに対し個人情報理解度テストを実施して、利用者の個人情報保護に努めている。 ○ 緊急連絡体制やマニュアルが整備されている。 また、速やかな対応がとれるよう、大分県が緊急時に発信する「県民安全・安心メール」に登録している。 ○ 毎日の巡回により、管理物件の異常の早期発見に努めるとともに、軽微な修繕については直ちに行っている。 ○ 独自の安全管理マニュアルに基づく定期点検や消防訓練、AED講習も行っている。 ○ 評価部会の意見を踏まえ、南海トラフ地震の発生による津波を想定した防災・避難訓練を利用者や周辺住民に参加してもらい実施した。 ○ 近隣自治区(西新地・大洲浜)の要請を受け、津波発生時の緊急避難場所(津波避難ビル)として硬式野球場が指定されたことから、夜間・休日の対応のため入口の鍵を自治区の代表者に貸し出している。 また、硬式野球場の2階の通路に災害時の飲料水確保の手段として自販機メーカーの協力を得て災害時対応型自販機2台を設置した。 ○ 感染症対策の一環として、主要施設のトイレの手洗い蛇口等の自動化や照明スイッチレス(人感センサー)化を進めている。			

【総合評価】

合計得点(100点満点)	80	評価ランク(A~E)	B
【評価の理由】 (大洲総合運動公園・大分県立総合体育館) ○ 施設の管理は問題なく行われている。 ○ 各種自主事業やパートナーシップ事業を展開するとともにインターネットでカルチャー教室等の申込みや各施設の空き状況が確認できるよう利便性を高めたことが利用者の増加につながっていると思われる。 ○ また、地元自治会、住民団体、周辺企業、学校、NPO法人、ボランティアグループ等との連携が保たれている。			
【今後の対応】 (大洲総合運動公園) ○ リニューアルした硬式野球場(ネーミングライツ名=別大興産スタジアム)において大きな大会の開催やイベントの誘致に取り組むとともに、テニスコートや弓道場等においてもより一層の利用者増加の取り組みが期待される。			
(大分県立総合体育館) ○ より幅広い年齢層の男女に利用していただくよう、現在のトレーニングルームでの取組(親切かつ適切で効果的な指導)の継続と各種カルチャー教室の充実により体育館の魅力が高まることが期待される。			

【指定管理者評価部会の意見】

○ 指定管理者である共同事業体の各分野のプロが良く連携し、共同事業体のメリットが十分に発揮されており、適正で効率的な運営が行われていると評価できる。
○ 大洲総合運動公園・県立総合体育館ともに多くのスポーツ大会等を行うだけでなく、新たな利用者の開拓として大洲公園祭りを開催し、屋台等を出すなどのスポーツにとらわれない取組も行い、利用者数・使用料収入の増加(前年比33,355人・3,149千円増)につながっていることは高く評価できる。
○ スポーツツーリズムのスポーツイベント(見るスポーツ)の推進として、イベント参加者だけでなく観戦者に対してもアンケートを行い、観戦者の満足度や更なるニーズの把握に努めてはどうか。